

純国産、無病、天然採苗アコヤ貝の 母貝養殖に関する研究

1 中核機関・研究総括者

福岡県水産海洋技術センター
深川 敦平

2 研究期間

2003 ~ 2005 年度 (3 年間)

3 研究目的

各地の真珠養殖地で原因不明の大量斃死が発生し、対応策として疾病に強い中国産貝と国産貝を掛け合わせたハーフ貝を使用しているが、その結果真珠の品質が低下している。一方、福岡県筑前海の貝は、「無病」「純国産」「天然採苗」のメリットを有する全国的にも貴重な貝であることが判明した。そこで、本海域における真珠養殖用母貝養殖技術の改善及び環境に応じた養殖技術を確立する。

4 研究内容及び実施体制

天然採苗試験 (福岡県水産海洋技術センター、福岡県漁連)

福岡県の環境特性にあった天然採苗技術 (採苗時期、採苗器、採苗場所、水深等) の確立

養殖管理試験 (福岡県水産海洋技術センター、福岡県漁連)

福岡県の環境特性にあった母貝養殖技術 (施設、垂下水深、成長促進等) の確立

挿核試験 (福岡県水産海洋技術センター、(株)ミキモト)

他県の真珠生産地 (三重県、大分県、長崎県対馬) における挿核試験による、母貝の価値判断

DNA 解析による地域別特性の把握 (福岡県水産海洋技術センター、(株)ミキモト)

遺伝資源の保全と、遺伝的多様性のモニタリングのために、中国産、他県産、福岡県産アコヤ貝の遺伝差異を DNA 解析により明らかにする。

5 目標とする成果

福岡県で純国産、無病、天然採苗アコヤ貝の母貝養殖技術が確立されることにより、現在低迷している国内真珠生産地にとっては、優良母貝 供給地の出現、生産真珠の質的向上および密殖の緩和が期待でき、地元漁業者に対しては、漁船漁業が伸び悩みの中、現在未利用資源であるアコヤ貝の高度利用を図ることによる漁家経営の安定並びに後継者対策となりうる。